

COMON 概念に基づいた国際卓越研究大学の基本方針（案）

1. 国際卓越研究大学としての京都大学の使命

京都大学は、創立以来「自由の学風」と「研究の多様性」を重んじ、独自の高度な学問文化を築いてきました。この伝統を次世代へ確実に継承し、未来の学術を支える持続的な基盤を形成するために、京都大学は既存の数値評価に依存しない新しい研究評価の枠組みとして COMON（コモン）を導入しました。

COMON は、研究を単なる成果の集計として評価するのではなく、対話と価値の共創を通じて知のあり方そのものを見つめ直す研究評価システムです。そこでは、京都大学が重視してきた研究の学術的価値を、創造的先進性・伏流性・積層性・波及性・汲集性＝COMON という五つの視点で捉えます。これらの視点は、研究成果を一時的な数値で序列づけるためのものではなく、研究活動の多様な価値を立体的に理解し、長期的な知の創造を支えるための共通言語です。

COMON はこの考え方を基礎に、京都大学全体の研究活動を俯瞰し、各研究組織が将来の展望と戦略を自らの言葉で語るための土台となっています。このような対話的な評価文化の構築と実践を通じて、京都大学は学術の自由と創造性を守りつつ、同時に、国際的にも高い信頼と存在感を備えた卓越研究大学としての使命を果たしていきます。

2. COMON による研究文化の深化と国際卓越性の達成

COMON に基づく研究評価の実践は、京都大学の研究文化を内側から豊かに育むものです。京都大学の研究組織は約 40 のデパートメントに分けられ、それぞれのデパートメントでは、自らのビジョンと中長期的構想・戦略を五つの視点に照らして語り、他者との対話を通じてその価値を共有することにより、研究の多様性と創造性が互いに響き合う学術環境を形成します。このような評価実践を通じた学術文化の醸成は、個々の研究の潜在力を引き出し、分野を越えた知の結節を促進します。同時に、各分野がそれぞれの国際的文脈の中で、世界の研究水準と誇り高く向き合うことを促します。その結果、研究成果の国際的な発信力が高まり、共創が進み、京都大学の学術的プレゼンスは自ずと強化されます。

国際的評価改革の潮流に基づき設計された COMON の評価システムは、研究の価値を世界水準で可視化するとともに、研究者が安心して挑戦できる環境をもたらします。その創造的エネルギーが知のフロンティアを切り拓き、さらに国内外から多様で優秀な研究者を惹きつける循環を生み出します。すなわち、COMON の推進こそが、国際卓越研究大学としての京都大学の研究力を根本から支える原動力となるのです。

京都大学は、大学ランキングなどで用いられる数値指標を目標とはしません。それらを大学の研究活動の健全性を多面的に把握するための参考情報として活用します。対話と共創を基盤とする研究評価を継続的に行うことで、研究の質が深化し、その結果として、これらの数値は確実に向上していくと考えています。

COMON の理念に根ざした評価文化と、国際的な研究卓越性の向上は、目的と手段の関係ではなく、相互に作用し合いながら持続的に発展する螺旋的な関係にあります。この循環を通じて、京都大学は、世界における「責任ある研究評価」の先導的モデルとしての地位を確立していきます。

3. 創造的競争と国際卓越性を支える COMON の理念

研究は本質的に他者との切磋琢磨と相互触発の営みです。世界中の研究者が刺激し合いながら問いに挑み、それぞれの視点から新たな知の地平を切り拓いてきました。こうした健全な競争と創造的対話の往還こそが、学問を進化させてきた原動力です。COMON は、この競争の意義を問い直し、対話と協働を通じて知の水準をともに高める文化を大学に根づかせようとしています。

京都大学が推進する COMON は、単に数値指標への依存を避ける制度ではありません。それは、大学全体の知的競争力を高めるための学術文化の設計思想です。COMON が否定するのは、短期的な成果の比較や内部での序列化に陥る「狭義の競争」であり、目指すのは、研究の水準そのものを引き上げる「創造的競争」です。ここでいう競争とは、徒に優劣をつけるものではなく、対話と協働を通じて知をともに成熟させる仕組みを意味します。対話を重視することと競争的であることは矛盾しません。むしろ、創造的競争を持続的に発展させる最も豊かな形こそ、対話と共創なのです。

4. COMON の運用原則

(1) 協働と信頼の基盤

多様な主体が信頼し合い、成果だけでなく協働そのものを評価し、京都大学独自の知を育む基盤とします。相互の信頼に基づく協働は、分野や世代を越えた知の融合を促し、創造的な研究の土壌を形成します。

(2) 絶対評価と挑戦の重視

序列化や分野間比較を行わず、デパートメントごとの戦略と達成を正に評価します。挑戦を尊び、失敗をも学びとする文化を築くことで、研究の創造的多様性を守り、長期的な研究卓越性の源泉を育てます。また、成果の偏りを放置せず、課題を共有し、形成的支援によって学問領域全体の底上げを図ります。

(3) 深い価値の理解と共有

異分野の知を尊重し、対話でその意義を共有し、多様な知の価値を公正に認める枠組みを整えます。分野ごとの方法や価値観の違いを尊重し、それらの多様性こそが大学の強みであるという意識を共有します。これにより、研究の深い価値が可視化され、分野を越えた共感と連携が生まれます。

(4) レジリエンスと循環

若手研究者が積極的に計画づくりに参画する仕組みを整えます。人材と知が大学内外で

循環することで、柔軟で持続的な研究環境を築き、変化の時代に対応できる研究力を確保します。この循環が、京都大学の国際的競争力の根幹をなします。

(5) 大学文化の可視化と発信

多様な研究の物語を社会に開き、京都大学独自の学術文化を世界に発信します。COMONの実践を通じて、京都大学は「学術文化としての卓越性」を示し、国際社会における責任ある研究評価のモデルとなります。

(6) システムの効果の把握と改善

これらの原則を踏まえ、制度の運用状況を継続的に把握し、時代や分野の変化に応じて柔軟に改善を行います。共有の精神のもと、時間軸の多元性を尊重し、分野ごとの研究の成熟速度に応じた定期的モニタリングを実施します。短期的成果のみならず中長期的な知の蓄積を正當に評価します。対話を通じて改善を重ねることで、協働と挑戦を支える仕組みを進化させ、COMONの理念と国際卓越研究大学としての使命の両立を持続的に実現していきます。

結語

COMONは、京都大学が長年培ってきた学問の自由と多様性の精神を継承しながら、創造的競争を通じて世界の学術をリードするための戦略的な評価の枠組みです。この取り組みを通じて京都大学は、「透明性と多様性に根ざした責任ある研究評価」を実現し、学術の未来を切り拓く国際卓越研究大学としての使命を果たしていきます。